

弘前発の津軽塗の映画が誕生！オール弘前ロケ！

バカ塗りの娘

「私、漆続ける」 その挑戦が家族と向き合うことを教えてくれた



青木家は津軽塗職人の父・清史郎と、スーパーで働きながら父の仕事を手伝う娘・美也子の二人暮らし。家族より仕事を優先し続けた清史郎に母は愛想を尽かして出ていき、家業を継がないと決めた兄は自由に生きる道を選んだ。

美也子は津軽塗に興味を持ちながらも父に継ぎたいことを堂々と言えず、不器用な清史郎は津軽塗で生きていくことは簡単じゃないと美也子を突き放す。それでも周囲の反対を押し切る美也子。その挑戦が、バラバラになった家族の気持ちを動かしていく。

見どころ

津軽塗がつなぐ父娘の絆 そして家族の物語

素朴で不器用な23歳の美也子を演じるのは堀田真由。そして、津軽塗職人の父・清史郎に、小林薫。二人は実際に地元の職人から津軽塗の技法を教わり撮影に挑んだ。津軽塗によってバラバラになってしまった家族が、美也子のある大きな挑戦によって再び向き合う姿を、四季折々の風景や土地に根付く食材と料理、そこに生きる人々の魅力を織り交ぜて描く。つらい時、楽しい時を塗り重ねるように日々を生きる父娘が、津軽塗を通して家族の絆をつないでいく。



全編を弘前市で撮影&青森出身キャスト勢揃い！

木野花、鈴木正幸、ジョナゴールド、王林など、青森出身キャストが集結。加えて全編弘前で撮影が行われ、津軽塗発祥の地にふさわしい、純度100%の津軽塗の映画が誕生した。

砂沢溜池や旧弘前偕行社など、弘前の名所から、おなじみのスーパーさとちょうまで登場！更に木野花演じる吉田のぼっちゃんが作る、“かやき（貝焼き）味噌”をはじめとした郷土料理の数々も、映画を魅力的に彩っている。

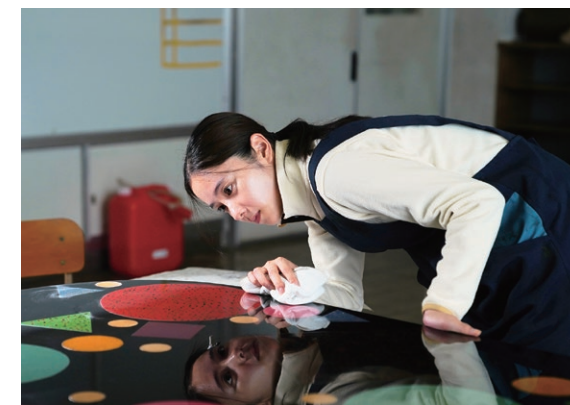


こだわりぬいた津軽塗の制作シーン

津軽塗職人の指導のもと、美也子役の堀田真由と清史郎役の小林薫は実際に津軽塗に挑戦。工房で、塗りや研ぎの音だけが鳴り響き、静寂の中で清史郎と美也子が並んで漆塗りへと向き合うシーンが印象的だ。

この津軽塗の制作シーンは特別にこだわったという鶴岡監督は、「津軽塗の制作シーンを省略しすぎてしまうと、津軽塗がものすごい数の工程を踏んで作られているものだということが伝わらなくなってしまふ。ひとつひとつの工程をしつこく見せるぞ！という思いで撮りました」と語る。

まさに一つ一つのカットがバカ丁寧に作られた、バカ塗り（津軽塗）の制作シーンは見逃せない。



市民の皆さんへメッセージ

主演
堀田真由さん
(青木美也子役)



私はそれぞれの地方で大切にされている文化に関心があったので、映画『バカ塗りの娘』で津軽塗について学ばせていただく機会をいただけて光栄でした。何度も塗っては研いでを繰り返し、完成するまでどのような形になるかわからないことから、それはまさに「人生」のようだと思いました。

弘前でロケは、町の皆さんの温かさに触れ、風情ある暮らしの中に溶け込み、穏やかな時間を過ごすことができました。津軽塗のひたむきさに重ね合わせるように、本作も丁寧に撮影させていただいたので、弘前の皆様をはじめ多くの方に津軽塗の素晴らしさが広がると嬉しいです。

プロフィール

1998年生まれ、滋賀県出身。2015年WOWOW連続ドラマ「テミス」でデビュー。その後、2017年NHK連続テレビ小説「わろてんか」で注目を集め、映画『かぐや様は告らせたい～天才たちの恋愛頭脳戦～』（河合勇人監督）シリーズなどの人気作品に多数出演。2022年には「鎌倉殿の13人」比奈役でNHK大河ドラマ初出演を果たした。

監督・脚本
鶴岡慧子さん

この映画を通じ、弘前が、ふとした瞬間に想いを馳せるような恋しい場所になりました。弘前の皆さんの優しさ、土地のおおらかさ、食の豊かさが、作品に大きなひらめきをもたらしてくれました。本当の意味で、みんなで作った映画になったと思います。そして私にとっての大きな財産は、津軽塗と出会えたこと。職人さんたちと一緒に映画を作らせていただいた今回の経験で、私は作り手としての大切な指針を授かった気がしています。間違いなく今後、私はこの経験を軸に、映画を撮り続けていくと思います。

プロフィール

立教大学現代心理学部映像身体学科卒業。卒業制作の初長編映画『くじらのまち』（2012年）が第34回PFFアワード2012グランプリとジェムストーン賞をW受賞。その他、『はつ恋』（2013年）、『過ぐる日のやまねこ』（2014年）、『まく子』（2019年）などの監督を務めた。

■問い合わせ先 弘前観光コンベンション協会 (☎35-3131)

©2023「バカ塗りの娘」製作委員会

青森県先行公開
8月25日(金)

全国公開
9月1日(金)

映画『バカ塗りの娘』
公式ウェブサイト